

<報道発表資料>

令和7年3月19日

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

令和6年度京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞の 被表彰者の決定及び表彰式の開催

京都市では、本市出身者又は本市内において活発な文化芸術活動を行い、将来を嘱望される方々に「京都市芸術新人賞」を、また、同じく本市内で活動を行い、新人の育成又は文化芸術に係る活動環境の向上に多大の功労があった方々に「京都市芸術振興賞」を授与し、その功績を称えています。

この度、令和6年度の被表彰者を決定し、3月27日（木）に表彰式を行います。

なお、本制度は、昭和50年度に創設し、令和5年度までに京都市芸術新人賞として275名の方々と、京都市芸術振興賞として152名の方々とを表彰しています。

【被表彰者（敬称略・五十音順）】

● 京都市芸術新人賞（11名）

<small>おきさわ</small> 沖澤 のどか	（洋楽（指揮））
<small>かつら によ</small> 桂 二葉	（落語）
<small>さかい けんや</small> 酒井 研野	（食文化）
<small>しみず はづき</small> 清水 葉月	（日本画）
<small>すぎ しんたろう</small> 杉 信太郎	（能楽）
<small>せんぼんぎ はる</small> 千本木 晴	（染織・テキスタイル）
<small>にしひさまつ ゆうか</small> 西久松 友花	（陶芸・現代美術）
<small>ひろた よしの</small> 廣田 美乃	（洋画）
<small>まきめ まなぶ</small> 万城目 学	（文学（小説））
<small>やまうち ともぎ</small> 山内 朋樹	（学術（美学））
<small>やました こうへい</small> 山下 耕平	（現代美術）

● 京都市芸術振興賞（9名・団体）

一般社団法人 アーツシード 京都	（芸術振興（舞台芸術））
いずはら つかさ 出原 司	（版画）
おおた こうじん 太田 耕人	（学術（英米文学・演劇））
しんない し が 新内 志賀	（邦楽（語り・三味線））
特定非営利活動法人 日本料理アカデミー	（食文化）
ほそい こういち 細井 浩一	（学術（文化資源学・ゲーム））
ほりき こ 堀木 エリ子	（和紙）
まつお めぐみ 松尾 恵	（芸術振興（現代美術））
もとやま ひでき 本山 秀毅	（洋楽（指揮））

【表彰式概要】

- 日時 令和7年3月27日（木）
1部：【京都市芸術振興賞】午後3時～
2部：【京都市芸術新人賞】午後4時30分～
- 場所 京都市役所 本庁舎4階 正庁の間
（〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地）
- 出席者 被表彰者及び同伴者
西村 義直 京都市会議長
平山 よしかず 京都市会副議長
篠原 資明 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員代表
松井 孝治 京都市長
吉田 良比呂 京都市副市長
山本 ひとみ 京都市文化市民局長
- 次第（1部・2部共通）
開会
来賓紹介
表彰状授与
挨拶 松井 孝治 京都市長
祝辞 西村 義直 京都市会議長
祝辞・功績紹介 篠原 資明 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員代表
被表彰者代表謝辞
閉会（閉会后、記念撮影）

<お問合せ先>

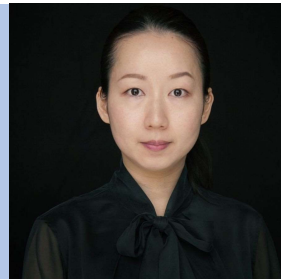
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

電話：075-222-3119

沖澤 のどか

おきさわ のどか (37歳)
洋楽 (指揮) / ドイツ・ベルリン

©Felix Broede



【功績】

東京藝術大学大学院音楽研究科指揮専攻修士課程修了後に渡独し、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリン修士課程オーケストラ指揮専攻修了。ルーマニア国際指揮者コンクールで第3位となり頭角を現すと、令和元年には若手指揮者の登竜門として世界的に知られるプザンソン国際指揮者コンクールで日本人として10人目となる優勝、併せて聴衆賞及びオーケストラ賞を受賞し、一躍大きな注目を集める。その後もベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、メルボルン交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団など、国内外の主要なオーケストラに多数客演を重ねている。

令和5年には京都市交響楽団の第14代常任指揮者に就任。小澤征爾氏から後継指名されたセイジ・オザワ松本フェスティバル首席客演指揮者も務めるなど、日本を代表する若手指揮者の一人として目覚ましい活躍を見せている。

＜略歴＞

- ・青森県出身
- ・オーケストラ・アンサンブル金沢指揮研究員 (平成23～24年)
- ・東京藝術大学大学院音楽研究科指揮専攻修士課程修了 (平成26年)
- ・ハンス・アイスラー音楽大学ベルリン修士課程オーケストラ指揮専攻修了 (令和元年)
- ・ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー奨学生 (令和2～4年)
- ・ミュンヘン交響楽団アーティスト・イン・レジデンス (令和4～5年)

＜現在＞

- ・京都市交響楽団常任指揮者
- ・セイジ・オザワ 松本フェスティバル首席客演指揮者

＜主な受賞歴等＞

- ・東京藝術大学 アカサス音楽賞、同声会賞 (平成23年)
- ・ルーマニア国際指揮者コンクール 第3位 (平成28年)
- ・東京国際音楽コンクール(指揮) 第1位、特別賞・齋藤秀雄賞 (平成30年)
- ・プザンソン国際指揮者コンクール 優勝、聴衆賞、オーケストラ賞 (令和元年)
- ・渡邊暁雄音楽基金 音楽賞 (令和2年)
- ・齋藤秀雄メモリアル基金賞 指揮部門 (令和5年)
- ・毎日芸術賞 ユニクロ賞 (令和6年)

＜主な活動等＞

国内外の主要なオーケストラへ定期的に客演

- ・「自由と平和のためのコンサート」(ベルビュー宮殿/ドイツ/令和4年)
- ・「カラヤン・アカデミー50周年記念公演」(ベルリン・フィルハーモニー/ドイツ/令和4年)
- ・「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」(まつもと市民芸術館、キッセイ文化ホール/長野/令和4、6年)
- ・「Debussy's Nocturnes Darkness and Light」(ハマーホール/オーストラリア/令和4年)
- ・「京都市交響楽団 定期演奏会」(京都コンサートホール/令和3年～)
- ・「関西6オケ! 2024」(フェスティバルホール/大阪/令和6年)
- ・「NHK交響楽団 2024年6月定期公演」(NHKホール/東京/令和6年)
- ・「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2024 読売日本交響楽団」(ミュージア川崎シンフォニーホール/神奈川/令和6年)

【CD】

- ・「シベリウス：交響曲第2番」(令和5年)
- ・「ブラームス：交響曲第1番&第2番 他」(令和6年)

＜京都市との関わり＞

- ・京都市交響楽団第14代常任指揮者 (令和5年～)

＜代表作等＞



©京都市交響楽団

「京都市交響楽団 第677回定期演奏会」
(京都コンサートホール/令和5年)



©朝日新聞文化財団提供
樋川智昭撮影

「京都市交響楽団 関西6オケ! 2024 公演」
(フェスティバルホール/大阪/令和6年)

桂 二葉

かつら によ (38歳)

落語／大阪府



【功績】

京都橘大学文学部卒業後、会社勤務を経て、24歳のときに上方落語家の桂米二氏に入門し、半年後に「道具屋」で初舞台を踏む。「女性が演じることは難しい」と言われてきた古典落語にこだわり、ひたむきに自己研鑽に励んで技術を磨き上げ、令和3年に若手落語家の登竜門として知られるNHK新人落語大賞を女性として初めて受賞し一躍脚光を浴びる。その後も東西の高座や全国各地での公演をはじめ、テレビやラジオなど、破竹の勢いで活躍の場を広げている。

落語がはじめての方でも気軽に落語が楽しめるように「深夜寄席」をプロデュースするなど、寄席の面白さをより多くの人に届けるため、上方落語の魅力発信にも積極的に取り組んでおり、現代の新たな感覚で愛嬌あふれる人々をいきいきと演じる姿や、誰もが親しみを感じるパーソナリティで、今最も注目される若手落語家として今後更なる活躍が期待されている。

<略歴>

- ・大阪府出身
- ・京都橘大学文学部文化財学科卒業（平成21年）
- ・桂米二氏に入門（平成23年）
- ・梅田にある太融寺にて「道具屋」で初舞台（平成23年）

<現在>

- ・公益社団法人上方落語協会会員
- ・株式会社ステッカー所属

<主な受賞歴等>

- ・NHK新人落語大賞（令和3年）
- ・繁昌亭大賞（令和4年）
- ・関西元気文化圏賞 ニューパワー賞（令和4年）
- ・咲やこの花賞 大衆芸能部門（落語）（令和4年）
- ・京都府あけぼの賞（令和5年）
- ・Forbes JAPAN WOMEN AWARD 2023 個人部門 パイオニア賞（令和5年）

<主な活動等>

【公演】

- ・「京都・らくご博物館」（京都国立博物館／平成28、令和元年）
- ・「おもしろハッピー落語会 in 京都」（京都府立府民ホールアルティ、京都府立文化芸術会館／令和4～5年）
- ・「桂二葉チャレンジ！！」（有楽町朝日ホール／東京／令和4年～）
- ・「春風亭一之輔×桂二葉 二人会」（京都芸術劇場 春秋座／令和5～6年）
- ・「第1回米二・二葉親子会」（天満天神繁昌亭／大阪／令和6年）
- ・「茂山狂言・桂二葉特選会 守破離 vol.1」（山本能楽堂／大阪／令和6年）
- ・「桂二葉独演会～あほの大舟～」(本多劇場、ABCホール／東京、大阪／令和6年)
- ・「深夜寄席」（天満天神繁昌亭／大阪／令和7年～）

【テレビ、ラジオ】

- ・「ぼかぼか」レギュラー（フジテレビ／令和5～6年）
- ・「探偵！ナイトスクープ」レギュラー（朝日放送テレビ／令和5年～）
- ・「桂二葉のサタデースペシャル」（ニッポン放送／令和6年）
- ・「情熱大陸」（TBSテレビ／令和7年）

【連載、書籍】

- ・「やいやい言わせて～桂二葉のけったいな日常～」連載（毎日新聞／平成30年～）
- ・『桂二葉本』（京阪神エルマガジン／令和5年）

<代表作等>



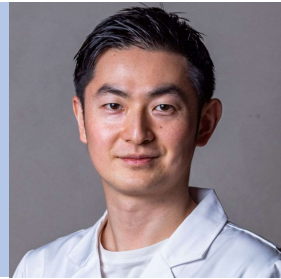
「桂二葉チャレンジ！！」
（有楽町朝日ホール
／東京／令和4年～）



「桂二葉独演会
～あほの大舟～」
（本多劇場／東京
／令和6年）

酒井 研野

さかい けんや (35歳)
食文化／京都市左京区



【功績】

辻調理師専門学校調理本科卒業後、料亭「菊乃井」に入社。平成29年、菊乃井姉妹店「無碍山房 Salon de Muge」の立ち上げに際し、料理長に就任。菊乃井を退職後、ニューヨークの日本料理店や京都の中国料理店で異なるジャンルの経験を積み、令和3年にオーナーシェフとして「日本料理 研野」を開店する。

翌年には『ミシュランガイド京都・大阪』にて1つ星を獲得するとともに、新しい価値観を持つ料理人を発掘する日本最大級の料理人コンペティション「RED U-35」において、「RED EGG（グランプリ）」を獲得。最近では機内食の監修や、海と食の未来について学び、考え、実践するプロジェクト「THE BLUE CAMP」における学生の伴走支援など、更に活躍の場を広げながら、「現代の日本を映し出す料理」をコンセプトに、日本料理の可能性を追求し続けている。

<略歴>

- ・青森県出身
- ・辻調理師専門学校調理本科卒業（平成21年）
- ・料亭「菊乃井」に入社（平成21年）
- ・姉妹店「無碍山房 Salon de Muge」の料理長に就任（平成29年）
- ・「菊乃井」を退職後、ニューヨークの「Shoji at 69 Leonard Street」、京都のレストラン「LURRA°」、中国料理の「京、静華」で勤務（平成31～令和3年）
- ・「日本料理 研野」を開店（令和3年）

<現在>

- ・「日本料理 研野」オーナーシェフ
- ・J.S.A. ソムリエ
- ・J.S.A. SAKE DIPLOMA

<主な受賞歴等>

- ・「RED U-35」SILVER EGG（平成27、令和3年）、GOLD EGG（平成28年）、BRONZE EGG（令和元年）、RED EGG（グランプリ）（令和4年）
- ・ヒトサテ「Best Chef & Restaurant」（令和4～6年）、U-35 シェフ賞（令和5～6年）
- ・『ゴ・エ・ミヨ』3トック（令和4～6年）
- ・『ミシュランガイド京都・大阪』1つ星（令和5～6年）
- ・「食ベログ 日本料理 WEST 百名店 2023」（令和5年）、「The Tabelog Award 2025」Silver、Best New Entry賞（令和7年）

<主な活動等>

伝統的な日本料理の知識・技巧をベースに、異なるジャンルでの経験も生かしながら、今の時代の日本を映す日本料理を模索している

- ・日本航空の機内食（国際線）を監修（令和6年）
- ・海の未来を担う若者たちが、フィールドワーク、レストラン研修などを経たのちに、ポップアップで「海の未来をつくるレストラン」を運営するプロジェクト「THE BLUE CAMP」で、学生を伴走支援（令和6年）

<代表作等>



3Dフードプリンタによる「ウニ寿司」の
プロトタイプ（RED U-35 2022 出品）



「一夜干し鮎の冷や汁 白味噌仕立て」

清水 葉月

しみず はづき (31歳)
日本画／京都市左京区



【功績】

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程日本画領域修了。
「対象を捉えようとする意識が薄らいだときに見えてくる、感覚とそこにある実感を造形化すること」を目指して、主に抽象画の制作に取り組んでいる。その作品は繊細で品格があり、それでいてダイナミックさをも兼ね備えており、日本画において重要視される「線を描く」技術や、余白を生かした空間の広がり・美しさは高い評価を受けている。
また、若手日本画家グループ「生動」で精力的に活動を続けながら、嵯峨美術大学での非常勤講師、100年以上の歴史を持つ関西美術院の指導者、絵画教室の講師を務めるなど、美術文化の普及振興や後進の育成にも寄与しており、新しい日本画表現を追求する若手日本画家として、今後益々の活躍が期待されている。

<略歴>

- ・京都府出身
- ・京都市立芸術大学美術学部卒業（平成28年）
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程日本画領域修了（令和6年）

<現在>

- ・日本画グループ「生動」所属
- ・嵯峨美術大学非常勤講師
- ・関西美術院指導者

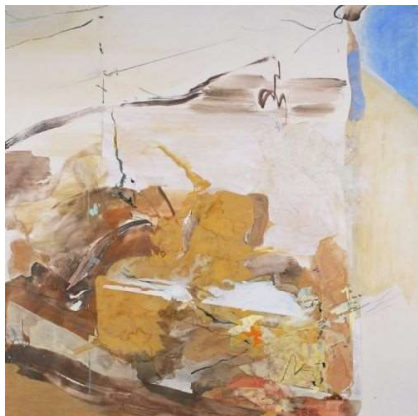
<主な受賞歴等>

- ・京都市立芸術大学作品展 山口賞（平成28年）
- ・京都日本画新展 優秀賞（令和2年）、奨励賞・京都市長賞（令和3年）
- ・上野の森美術館大賞展 入選（令和5年）

<主な活動等>

- ・「石本正日本画大賞展」（浜田市立石正美術館／島根／平成28年）
- ・「学生日本画作品展示」（ホテルグランヴィア京都／平成30年）
- ・「日本画三人展 しらぬみ」（Galley Ann／京都／平成31年）
- ・「京都 日本画新展 受賞者三人展」（京都高島屋／令和3年）
- ・「INTERIM SHOW 2021」（京都市立芸術大学／令和3年）
- ・【個展】「Mellow scene」（ギャラリー恵風／京都／令和4年）
- ・「手馴草展 京都日本画家による扇子展」（宮脇賣扇庵 京都本店／令和4～5年）
- ・「IIMEHUKURAME in NAGOYA」（松坂屋名古屋店／愛知／令和4年）
- ・「いい芽ふくら芽選抜展」（GINZA SIX／東京／令和5年）
- ・「生動2023」（白沙村荘 橋本関雪記念館／京都／令和5年）
- ・「関西美術院展」（京都府立文化芸術会館／令和6年）
- ・「生動2024」（堀川御池ギャラリー／京都／令和6年）

<代表作等>



「間戸」（令和元年）



「常々」（令和5年）

杉 信太郎

すぎ しんたろう (38歳)
能楽／京都市中京区



【功績】

能楽の重要無形文化財保持者（総合認定）である杉市和氏の長男として京都市に生まれる。幼少期から父に師事し、12歳のときに舞囃子「胡蝶」で初舞台を踏む。翌年も初能「花月」で舞台に立ち、以後も森田流笛方として、「翁」「石橋」「道成寺」等を抜く。東京藝術大学にて邦楽を学び、卒業後は京都や東京を中心に、自主公演「杉信の会」主宰、テレビや映画への出演、YouTube配信など、多岐にわたって精力的に活動を展開。また、京都新能への出演や、国立能楽堂をはじめ全国各地で講座やワークショップの講師を務めるなど、能楽の普及促進及び継承にも力を注いでいる。令和5年には能楽最高位の秘曲と呼ばれる「関寺小町」を抜き、今後更なる活躍が期待される若手能楽師である。

本名 武田 真太郎（たけだ しんたろう）
森田流笛方

<略歴>

- ・京都市出身
- ・父の杉市和氏に師事し、12歳で舞囃子「胡蝶」にて初舞台
- ・東京藝術大学邦楽別科卒業（平成19年）

<現在>

- ・公益社団法人能楽協会会員
- ・一般社団法人京都能楽会会員
- ・一般社団法人京都能楽囃子方同明会会員
- ・「杉信の会」主宰

<主な活動等>

- ・「壬生大念佛狂言」に幼少期より例年講中として出仕（壬生寺／京都）
- ・初舞台舞囃子「胡蝶」（京都観世会館／平成10年）
- ・初能「花月」（河村能舞台／京都／平成11年）
- ・能「翁」（金剛能楽堂／京都／平成16年）
- ・能「石橋」（比叡山延暦寺根本中堂／滋賀／平成18年）
- ・能「道成寺」（京都観世会館／平成19年）
- ・謡かたり「隅田川」（NHK Eテレ「にっぽんの芸能」／平成26年）
- ・「杉信の会」（セルリアンタワー能楽堂、京都観世会館／東京、京都／平成29～令和元、3、5、6年）
- ・「曲水の宴」に歌人として参加（北野天満宮／京都／平成30年）
- ・能「関寺小町」（観世能楽堂／東京／令和5年）
- ・能「三輪 誓納」（観世能楽堂／東京／令和6年）

<京都市との関わり>

- ・京都・パリ友情盟約締結60周年記念事業「能×ファッションショー」（パリ市役所／フランス／平成30年）
- ・京都市自治120周年記念式典 オープニングセレモニー（ロームシアター京都／平成30年）
- ・京都新能に例年出演（平安神宮／京都）

<代表作等>



謡かたり「隅田川」
（すみだトリフォニーホール／東京／令和4年）



「第五回記念 杉信の会」
（京都観世会館／令和5年）

千本木 晴

せんぼんぎ はる (27歳)
染織・テキスタイル／東京都世田谷区



【功績】

京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程染織専攻修了。
大学在学時から美術展への出展やコンサートの衣装・舞台美術の制作など幅広い活動を展開しており、作品と鑑賞者とを区別せず展示空間と一体となるような装置としてのテキスタイルの新たな形を表現し、大学の作品展では4年連続の受賞を果たすなど、その制作作品は早くから注目を集めている。
大学院修了後はインテリア雑貨の企画・販売等を手掛ける会社でカーテンやラグ、ファブリック等の企画・デザインに携わる傍ら、令和5年からは二人組ユニット「some/to (ソメト)」として活動を開始。目に見えていない現象やものの関係を染料で布に留めることを模索するなど、染織の新たな可能性に挑戦しており、今後益々の活躍が期待されている。

<略歴>

- ・福岡県出身
- ・京都市立芸術大学美術学部工芸科染織専攻卒業 (令和2年)
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程染織専攻修了 (令和4年)
- ・長谷川夏実氏と共に二人組ユニット「some/to (ソメト)」として活動開始 (令和5年)
- ・台東区谷中に「some/to」のアトリエを移転、住宅や店舗のテキスタイル作成など本格的に活動を展開 (令和7年)

<現在>

- ・「some/to」メンバー

<主な受賞歴等>

- ・京都市立芸術大学作品展 奨励賞 (平成31年)、同窓会賞 (令和2年)、三浦賞 (令和3年)、大学院市長賞 (令和4年)
- ・sanwa company Art Award 2023 グランプリ (令和5年)

<主な活動等>

- ・「きるもの展」(ギャラリーギャラリー／京都／平成30年)
- ・「交わる色、いつかは解ける。」(ギャラリーマロニエ／京都／令和元年)
- ・「/new normal」(bonton.／兵庫／令和2年)
- ・「全国大学選抜染色作品展」(染・清流館／京都／令和3年)
- ・【個展】「singing color dancing cloth」(KUNST ARZT／京都／令和3年)
- ・「Kyoto Art for Tomorrow 2022-京都府新鋭選抜展-」(京都文化博物館／令和4年)
- ・「新鋭染色作家展 布の向こう側」(染・清流館／京都／令和4年)
- ・「sanwa company Art Award2023」(サンワカンパニー東京ショールーム／令和5年)
- ・「食べるように、話すように、つくる」(お皿とスプーン／京都／令和5年)
- ・【個展】「色と形のヒント」(楽空間祇をん小西／京都／令和6年)
- ・「干支(巳) 祝お正月展」(楽空間祇をん小西／京都／令和6年)
- ・客室のテキスタイル作成 (草津温泉 旅館 望雲／群馬／令和6年)

【衣装・舞台美術制作】

- ・通崎睦美コンサート「今、甦る！木琴デイズ」(京都文化博物館／平成30～令和4年)
- ・通崎睦美「木琴リサイタル ～木琴×弦楽四重奏」(王子ホール／東京／令和元年)

<代表作等>



photo : Shimizu Kana
「singing color
dancing cloth」
(令和3年)

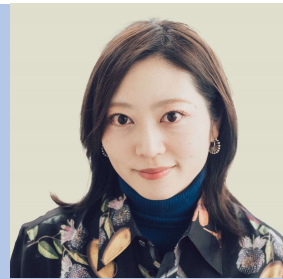


photo : 矢野誠
「色と形のヒント」
(令和6年)

西久松 友花

にしひさまつ ゆうか (32歳)
陶芸・現代美術／京都市山科区

©kaizakimaria



【功績】

両親が日本画家という家庭で育ち、大学で本格的に陶芸を学び始め、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器修了後、京都を拠点に制作活動を行う。

装飾的な観点から、伝世品や歴史的、文化的、宗教的な背景を持つ象徴物の造形及び色彩に加え、近年は生物が作り出す巣や営み、生死などにも関心を寄せており、それらの形象をドロ잉によって部分的に抽出、金やプラチナなどの異素材を用いて装飾を施しながら陶立体へと再構築、再解釈している。多彩な釉薬を性質に応じて意識的に塗り分け、窯の中で起こる偶発的な化学変化を経て生み出された作品は、荘厳かつ優美な世界観が表現され、高い評価を受けている。国内外の美術展にも多数出展し、精力的に作品の制作・発表を続けており、今後更なる活躍が期待されている。

<略歴>

- ・京都府出身
- ・京都市立銅駝美術工芸高等学校（現 京都市立美術工芸高等学校）日本画専攻卒業（平成23年）
- ・京都市立芸術大学美術学部工芸科陶磁器専攻卒業（平成28年）
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器修了（平成30年）
- ・京都市立芸術大学非常勤講師（平成30～令和3年）

<主な受賞歴等>

- ・リサ・ラーソン展関連企画「陶芸の森デザインコンペ やきものによる動物のインテリア」展 入選（平成26年）
- ・京都市立芸術大学作品展 市長賞（平成28年）
- ・京都花鳥館賞奨学金 優秀賞（平成28、29年）、最優秀賞（平成30年）
- ・「Kyoto Art for Tomorrow-京都府新鋭選抜展2017」NHK京都放送局賞（平成29年）
- ・ART&CITY AWARD presents シェリアタワー中之島 グランプリ（令和5年）
- ・国際陶磁器展美濃 入選（令和6年）

<主な活動等>

- ・【個展】「拠」（ギャラリーヒルゲート／京都／令和2年）
- ・【個展】「珠-マニ-」（ギャラリーヒルゲート／京都／令和3年）
- ・【個展】「化生」（芝田町画廊／大阪／令和4年）
- ・【個展】西久松友花展（ザ・プリンス京都宝ヶ池／令和4年）
- ・「とどまるもの、とどまらないもの」（仁和寺／京都／令和4年）
- ・「美の予感2023-生彩-」（高島屋／東京、京都、愛知、大阪／令和5年）
- ・「Slow Culture #kogei」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／令和5年）
- ・「空中幽泳」（ギャラリーヒルゲート／京都／令和5年）
- ・「漂う境目」（京都 蔦屋書店／令和6年）
- ・【個展】「幽けき棲処」（Marco Gallery／大阪／令和6年）
- ・「TRILOGY」（Numero.51 Concept Gallery／イタリア／令和6年）
- ・【個展】「Umwelt」（Art Collaboration Kyoto）（国立京都国際会館／令和6年）
- ・「INSIDE」（ROD GALLERY／東京／令和6年）
- ・「Reunion-環-」（YUMEKOUBOU GALLERY／京都／令和6～7年）

<代表作等>



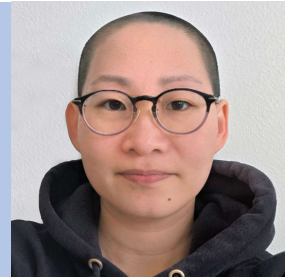
photo : Takeru Koroda
「蛹」（令和6年）



photo : Takeru Koroda
「幽境の砦」（令和6年）

廣田 美乃

ひろた よしの (37歳)
洋画／京都市西京区



【功績】

京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業。

主に子どもの人物画を制作しており、独創的な絵画空間の中でリアリティをもって描かれた人物の表情は、清謐さやノスタルジックな雰囲気醸し出すとともに、繊細な心の機微をも表現し、見る者の心を魅了している。また、時にその作品に曖昧さや不確かさを内包することで、多様性の尊重にとどまらず、固定観念からの脱却を試みている。

大学在学時に初めて個展を開催して以来、15年にわたって毎年開催を続け、意欲的に作品の制作・発表を行うとともに、近年では銅版画やドローイングにも挑戦している。また、制作活動と並行して新聞の挿画や劇団のメインビジュアルを手掛けるなど、活躍の場を広げており、今後更なる活躍が期待されている。

<略歴>

- ・京都市出身
- ・京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業（平成23年）

<現在>

- ・奈良芸術短期大学洋画コース専任講師

<主な受賞歴等>

- ・ワンダーシード2012 入選（平成24年）
- ・京都美術ビエンナーレ 産経新聞社賞（平成25年）
- ・京展 市長賞（平成25年）

<主な活動等>

- ・【個展】「ヒロタノ個展」（レティシア書房／京都／平成24年）
- ・「Kyoto Art for Tomorrow－京都府新鋭選抜展2017」（京都文化博物館／平成29年）
- ・「美術館リ・ボンに向けて『市展・京展80周年記念展』2016京展」（京都市美術館／平成29年）
- ・「手のひらに絵を3人展」（hitotoiro／京都／令和3～4年）
- ・【個展】「廣田美乃絵画展－特別のすこし手前－」（阪急うめだ本店／大阪／令和4年）
- ・【個展】「廣田美乃絵画展－ここまでの途中－」（仙台三越／宮城／令和4年）
- ・【個展】「長い夜の音」（ギャラリーモーニング／京都／令和4年）
- ・【個展】「廣田美乃絵画展－ここからのつづき－」（伊勢丹新宿本店／東京／令和4年）
- ・【個展】「すまに さかいめ」（ギャラリーモーニング／京都／令和5年）
- ・【個展】「ENTRANCE」（ギャラリーモーニング／京都／令和6年）
- ・「Favorite Art view」（ギャラリーモーニング／京都／令和6年）

【メインビジュアル】

- ・幻灯劇場「DADA」メインビジュアル「夜に潜る」（令和5年）
- ・安住の地 一人芝居企画「声」メインビジュアル「声」（令和5年）

【新聞挿画】

- ・「浪花女を読み直す」（筆者：石野伸子／産経新聞連載／平成24～令和元年）

<代表作等>



「声」（令和5年）



「境目のある絵」（令和5年）

万城目 学

まきめ まなぶ (49歳)
文学 (小説) / 東京都

©文藝春秋



【功績】

京都大学法学部卒業。大学在学中から小説を書き始め、会社勤務を経て、29歳の時に京都を舞台にした青春小説「鴨川ホルモー」で第4回ポイルドエッグズ新人賞を受賞し、作家デビューを果たす。以後も『鹿男あをによし』、『プリンセス・トヨミ』、『とっぴんぱらりの風太郎』、『悟浄出立』など、独自の世界観と鮮烈な感性から生み出される作品で人気を博す。

「万城目ワールド」とも呼ばれる、実在の事物や日常の中に奇想天外な非日常性を持ち込むファンタジー小説は幅広い世代から絶大な人気を誇り、次々に映像化されるなど、大きな話題となっている。

令和6年には、16年ぶりに京都を舞台に若者を描いた小説『八月の御所グラウンド』で、通算6度目のノミネートとなった直木三十五賞を受賞した。

<略歴>

- ・大阪府出身
- ・京都大学法学部卒業 (平成12年)
- ・ポイルドエッグズ新人賞を受賞した『鴨川ホルモー』で作家デビュー (平成18年)

<主な受賞歴等>

- ・ポイルドエッグズ新人賞 (平成17年) (『鴨川ホルモー』)
- ・輝く! プランチBOOK大賞 新人賞 (平成18年) (『鴨川ホルモー』 (産業編集センター/平成18年))
- ・咲くやこの花賞 (平成21年)
- ・名古屋文庫大賞 (平成23年) (『ザ・万歩計』 (文藝春秋/平成20年))
- ・京都府文化賞奨励賞 (平成26年)
- ・直木三十五賞 (令和6年) (『八月の御所グラウンド』 (文藝春秋/令和5年))
- ・京都新聞大賞 (令和6年)
- ・京都府文化賞功労賞 (令和7年)

<主な活動等>

- ・『鴨川ホルモー』 (産業編集センター/平成18年)
- ・『鹿男あをによし』 (幻冬舎/平成19年)
- ・『ホルモー六景』 (KADOKAWA/平成19年)
- ・『プリンセス・トヨミ』 (文藝春秋/平成21年)
- ・『かのかちゃんとマドレーヌ夫人』 (筑摩書房/平成22年)
- ・『偉大なる、しゅららぼん』 (集英社/平成23年)
- ・『とっぴんぱらりの風太郎』 (文藝春秋/平成25年)
- ・『悟浄出立』 (新潮社/平成26年)
- ・『バベル九朔』 (KADOKAWA/平成28年)
- ・『パーマメント神喜劇』 (新潮社/平成29年)
- ・『ヒトコブラクダ層ぜっと』 (幻冬舎/令和3年)
- ・『あの子とQ』 (新潮社/令和4年)
- ・『八月の御所グラウンド』 (文藝春秋/令和5年)
- ・『六月のぶりぶりぎっちょ』 (文藝春秋/令和6年)
- ・『新版 ザ・万字固め』 (ミシマ社/令和7年)

<代表作等>



『鴨川ホルモー』 (文庫)
(KADOKAWA/平成21年)



『八月の御所グラウンド』
(文藝春秋/令和5年)

山内 朋樹

やまうち ともき (46歳)
学術 (美学) / 滋賀県大津市



【功績】

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程を指導認定退学。在学中に庭師のアルバイトをはじめ、研究の傍ら独立。美学者・庭師として、京都市内を中心に大学の非常勤講師、作庭グループの自営、作品発表等を行ってきた。現在は京都教育大学の准教授として教壇に立つ。

福知山市の観音寺の作庭プロセスを捉えた『庭のかたちが生まれるとき』の執筆、『動いている庭』や『デレク・ジャーマンの庭』の翻訳紹介のほか、庭をテーマとするドキュメンタリー映画への出演、市民を交えた京都の庭のフィールドワークや講演など幅広い活動を展開し、庭の魅力を発信するとともに、新しい庭のヴィジョンを提示し続けている。

また、京都教育大学では庭を芸術の一分野と位置づけた「作庭実習」を行い、後進の育成にも力を注いでいる。

<略歴>

- ・兵庫県出身
- ・作庭グループを自営 (平成16~28年)
- ・京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程指導認定退学 (平成23年)
- ・京都教育大学非常勤講師 (平成23~28年)
- ・京都造形芸術大学 (現 瓜生山学園京都芸術大学) 非常勤講師 (平成24~28年)
- ・関西大学非常勤講師 (平成24~28年)
- ・京都精華大学非常勤講師 (平成27~28年)
- ・京都教育大学講師 (平成28~31年)

<現在>

- ・京都教育大学准教授
- ・慶應義塾大学大学院特別招聘准教授
- ・同志社大学大学院非常勤講師

<主な活動等>

【著書】

- ・『ライティングの哲学 書けない悩みのための執筆論』 (共著 / 星海社 / 令和3年)
- ・『庭のかたちが生まれるとき 庭園の詩学と庭師の知恵』 (フィルムアート社 / 令和5年)

【訳書】

- ・『動いている庭』 (ジル・クレマン著 / みすず書房 / 平成27年)
- ・『デレク・ジャーマンの庭』 (デレク・ジャーマン著 / 創元社 / 令和6年)

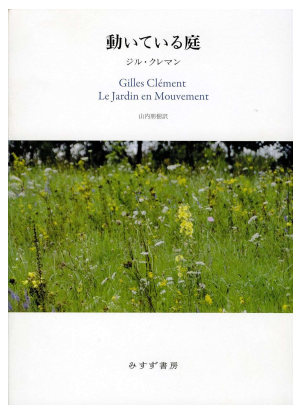
【寄稿】

- ・「なぜ、なにもないのではなく、パンジーがあるのか 浪江町における復興の一断面」 (『アーギュメント』 / 洪家 / 平成30年)
- ・「龍安寺庭園を変換する ホックニーのフォトコラージュ」 (『美術手帖』 / 美術出版社 / 令和5年)
- ・「平安神宮神苑を再構成する フィールドワークから庭のかたちを探る」 (『美術フォーラム21』 / 醍醐書房 / 令和6年)

【その他】

- ・「KYOTO EXPERIMENT 2014 フリンジ企画「仮止めされた風景」作品展示 (Bijuu Gallery / 京都 / 平成26年)
- ・映画「動いている庭」出演 (監督: 澤崎賢一、製作: エマニュエル・マレス / 平成28年)
- ・「変動する庭 / 変動させる庭」庭園フィールドワーク講師 (無鄰菴ほか / 京都 / 平成30~31年)
- ・「庭と庭師の秘密をひもとく」トークイベントゲスト (有斐斎弘道館 / 京都 / 令和7年)

<代表作等>



『動いている庭』
(訳書 / ジル・クレマン著 / みすず書房 / 平成27年)



『庭のかたちが生まれるとき
庭園の詩学と庭師の知恵』
(フィルムアート社 / 令和5年)

山下 耕平

やました こうへい (41歳)
現代美術／滋賀県大津市

©Shunzo Nishikawa



【功績】

京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻造形構想修了。

「遠近」や「現在位置」といった距離や時間を作品のテーマに取り上げ、ライフワークとしている登山を通して獲得した記憶や経験をインスタレーションなどの作品で表現している。近年は「美しさ」や「醜さ」をテーマにした作品を手掛けながら、国内外の企画展に参加するなど、京都を拠点に意欲的に作品の制作・発表を行っている。

また、制作活動と並行して京都市立美術工芸高等学校の教員を務めており、制作者としての自身の視点や経験、表現の可能性を教育現場に還元。令和6年にはアート作品などの文化芸術に身近に触れる事業「下京・南まちなかアート」において、同校の生徒とともにグループ展を開催するなど、積極的に地域に根差した活動を展開している。

<略歴>

- ・茨城県出身
- ・京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻卒業（平成20年）
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻造形構想修了（平成22年）

<現在>

- ・京都市立美術工芸高等学校教員

<主な受賞歴等>

- ・京都市立芸術大学卒業制作展 市長賞（平成20年）、同窓会賞（平成22年）

<主な活動等>

- ・【個展】「ケルン・現在位置」（INAXギャラリー2／東京／平成21年）
- ・【Views of Life】（hpgrp GALLERY NEW YORK／アメリカ／平成24年）
- ・【大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012】（松代 木和田原地区／新潟／平成24年）
- ・【わたしたちは粒であると同時に波のよう】（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／平成25年）
- ・【中景－The Glory (of phenomenon) : Act II－】（HOTEL ANTEROOM KYOTO／平成28年）
- ・【個展】「WOODS」（TEZUKAYAMA GALLERY／大阪／平成29年）
- ・【個展】「Remember Something」（MEDIA SHOP gallery2／京都／令和元年）
- ・【Kyoto Art for Tomorrow 2021－京都府新鋭選抜展－】（京都文化博物館／令和3年）
- ・【山怪－異世界への憧れと畏れ】（瑞雲庵／京都／令和3年）
- ・【たつのアートシーン2021】（みの劇場／兵庫／令和3年）
- ・【Tatsuno Art Project:Góra. Zachwyt i groza】（日本美術・技術博物館 Manggha／ポーランド／令和5年）
- ・DELTA Exhibition「Parallel Process」（アートかびーふんか白厨／東京／令和6年）
- ・【個展】「S L A B」（TEZUKAYAMA GALLERY／大阪／令和6年）

<京都市との関わり>

- ・ALLNIGHT HAPS 2016後期「私がしゃべりすぎるから／私がしゃべりすぎないために」（HAPSオフィス／京都／平成28年）
- ・「下京・南まちなかアート」（九条湯／京都／令和6年）

<代表作等>



©Tomasz Osiak

「Hira」（令和5年）



©Mugyuda Hyogo

「S L A B」（令和6年）

一般社団法人 アーツシード京都

芸術振興（舞台芸術）／京都市南区

THEATRE E9 KYOTO

【功績】

京都市内の小劇場の相次ぐ閉館を受け、京都の演劇人が集い、平成29年に設立。「京都に100年続く小劇場を！」という理念を掲げ、令和元年に「THEATRE E9 KYOTO」を開設し、演劇やダンス等の主催公演及び貸館公演を行うほか、「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭」に参画するなど、京都の舞台芸術のための創造環境を守り通している。また、劇場文化を起点にしつつ、地域、経済、文化がつながる社会の実現を目指すなど、舞台芸術という領域を超えて、文化芸術都市・京都の推進及び振興に尽力している。

多くの舞台芸術関係者の共感を集め、市民や企業を巻き込み、場を立ち上げる姿は、後のコロナ禍における文化支援の在り方を先取りしたものであり、「新しい公共」の一つの姿としても特筆に値する。

<沿革>

- ・平成27～29年に京都市内の小劇場が相次いで閉館したことに危機感を持った演劇関係者が集まり、一般社団法人アーツシード京都を設立、京都駅東南部エリアである南区東九条に新しい小劇場をつくるプロジェクト「THEATRE E9 KYOTO」を始動（平成29年）
- ・寄付や協賛、クラウドファンディング等により、延べ1,000人を超える個人や企業から支援を得て、劇場とコワーキングスペース、カフェを併設した複合文化施設「THEATRE E9 KYOTO」を開館（令和元年）
- ・「THEATRE E9 KYOTO」運営（令和元年～）
- ・舞台芸術の次世代を応援するため、基金「E9 Next Generation Foundation」設立（令和6年）

<主な受賞歴等>

- ・これからの1000年を紡ぐ企業認定（令和3年）
- ・KYOTO Next Award 2023 優秀賞（令和5年）

<主な活動等>

- ・これまで京都の小劇場が担ってきた「創造環境」を守り、引き継いでいくとともに、アーティストにとって作品をじっくりと作り込める創造性あふれる施設を目指し、来訪者や地域住民との交流を重ね、演劇文化の研究・創造・発表を行う拠点づくりに取り組む
- ・京都駅東南部エリアの活性化に向けて、崇仁地域に移転した京都市立芸術大学との連携など、文化芸術を核とした地域の活力向上に資する取組を行う
- ・京都国際舞台芸術祭実行委員会に参画（令和3年～）

【THEATRE E9 KYOTOにおける公演、シンポジウムなど】

- ・こけら落とし狂言「三本柱」（令和元年）
- ・「無人劇 unmanned play」（令和2年）
- ・THEATRE E9 KYOTO×京都舞台芸術協会 ショーケース企画「Continue」（令和3年）
- ・「技術ワークショップ」（令和4年～）
- ・THEATRE E9 KYOTO開館5周年記念シンポジウム「100年続く小劇場－新しい公共と文化政策」（令和6年）

<京都市との関わり>

- ・「東九条野外劇場 まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこす」企画制作（北河原市営住宅跡地／京都／令和元年）
- ・京都駅周辺エリアのカルチャーを発信する広報誌「5TO9（ゴトウナイン）」掲載（令和3年）

<代表作等>



撮影：麥生田兵吾

「THEATRE E9 KYOTO」運営（令和元年～）



「無人劇 unmanned play」（令和2年）

出原 司

いずはら つかさ (71歳)
版画／京都市北区



【功績】

京都市立芸術大学美術専攻科西洋画専攻修了後、大阪芸術大学や嵯峨美術短期大学での非常勤講師などを経て、京都市立芸術大学で教壇に立ち、同大学の教授を務め、長年にわたり後進の育成に尽力する。版画学会会長を務めたほか、京都版画トリエンナーレの運営に第1回から一貫して関わるなど、版画文化の振興に大きく寄与してきた。

リトグラフ（石版画）の版画家としても活動し、細い木のフレームを用いて版画紙を繋ぎ合わせる「木製支持架」を使って革新的な大型作品を次々に発表、視覚的にも斬新で立体的な作品により版画の表現領域を大きく広げることに成功した。また、京都周辺で活動する版画家グループ「MAXI GRAPHICA」に参加し、柔軟な発想で現代版画の可能性を追求し続けた。現在、京都リトグラフ工房を主宰し、機材、技術の保存継承に努めるとともに、貴重な制作の場を提供している。

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・京都市立芸術大学美術専攻科西洋画専攻修了（昭和54年）
- ・「MAXI GRAPHICA」結成（昭和63年）
- ・嵯峨美術短期大学非常勤講師（平成2～7年）
- ・大阪芸術大学非常勤講師（平成6～8年）
- ・京都市立芸術大学美術学部常勤教員（平成8～17年）
- ・京都市立芸術大学美術学部教授（平成17～31年）
- ・版画学会会長（平成29～31年）

＜現在＞

- ・京都市立芸術大学名誉教授
- ・京都リトグラフ工房主宰
- ・京都版画トリエンナーレ推進委員

＜主な受賞歴等＞

- ・京展 朝日放送賞（平成元年）、京展賞（平成4年）
- ・次代を担う作家展 優秀賞（平成3年）
- ・大阪トリエンナーレ1997 版画 大阪21世紀協会賞（平成9年）

＜主な活動等＞

- ・「MAXI GRAPHICA」（京都市美術館ほか／昭和63～平成2、13、20年）
- ・「和歌山版画ビエンナーレ展」（和歌山県立近代美術館／平成元、5年）
- ・「版から／版へ」（京都市美術館／平成元年）
- ・「アート・ナウ」（兵庫県立近代美術館／平成6年）
- ・「現代版画・21人の方向 -現代版画入門-」（国立国際美術館／大阪／平成11年）
- ・釜山ビエンナーレ2010「Now! Asian Artists」（釜山文化会館／韓国／平成22年）
- ・「HANGA展-日本とベルギーの版画の今日」（シント＝ニコラス市立美術館／ベルギー／平成26年）
- ・「現代版画の展開」（和歌山県立近代美術館／平成29年）
- ・出原司 京都市立芸術大学退任記念「かいじゅう vs かいじゅう」（京都市立芸術大学／平成31年）
- ・【個展】出原 司 展「海のもの、山のもの」（にっぽん丸ギャラリー（にっぽん丸船内）／令和元年）
- ・「石ノエニ描ク 石版画と作り手たちの物語」（和歌山県立近代美術館／令和5年）
- ・【個展】「-出原司のリトグラフ- 出原司リトグラフ個展」（ギャラリーヒルゲート／京都／令和6年）
- ・「yanagida AG Lab in TAU 2024 -アルミ版研磨とリトグラフ-展」（多摩美術大学／東京／令和6年）
- ・「CWA」現代版画展」（ヒルサイドフォーラム／東京／令和6年）

＜代表作等＞

「99ピースのヨナ・キッド」
（昭和62年）



「南の海でゆっくり漂う」
（昭和63年）



太田 耕人 おおた こうじん (69歳)

学術 (英米文学・演劇) / 京都市伏見区



【功績】

筑波大学大学院文芸・言語研究科博士課程後期中退後、長年にわたり京都市内の複数の大学で教壇に立ち、京都教育大学教授、副学長等を経て、現在は京都教育大学学長、京都国際舞台芸術祭顧問などを務める。

英国ルネサンス演劇を専門とし、『ギリシア悲劇を上演する』の翻訳、『シェイクスピアを学ぶ人のために』の分担執筆、京都新聞をはじめ新聞や演劇専門誌『テアトロ』等に現代演劇の評論を寄稿するなど、演劇評論家として幅広く活動している。

また、関西現代演劇俳優賞の創設、文化庁芸術祭執行委員や日本芸術文化振興会評価委員などを歴任し、日本における文化芸術活動の普及振興や人材育成に尽力するとともに、京都芸術センターや京都市立芸術大学をはじめ、京都市の文化芸術分野における委員を多数務め、京都の文化芸術の振興にも多大な貢献を果たしている。

演劇評論家

<略歴>

- ・神奈川県出身
- ・筑波大学大学院文芸・言語研究科博士課程後期中退 (昭和58年)
- ・京都教育大学教育学部講師 (昭和58～平成4年)
- ・京都外国語大学外国語学部非常勤講師 (平成元～23年)
- ・京都大学総合人間学部非常勤講師 (平成2～11年)
- ・京都教育大学教育学部助教授 (平成4～16年)
- ・立命館大学文学部非常勤講師 (平成14～23年)
- ・京都教育大学教育学部教授 (平成16～28年)
- ・京都教育大学副学長 (平成23～令和2年)

<現在>

- ・京都教育大学学長
- ・日本英文学会会員
- ・日本シェイクスピア協会会員
- ・日本演劇学会会員
- ・国際演劇評論家協会日本センター会員
- ・十三夜会会員

<主な活動等>

演劇や舞台芸術をはじめ、文化芸術の振興に関する選考・審査委員を多数務める

- ・関西現代演劇俳優賞創設及び同選考委員 (平成10年～)
- ・朝日舞台芸術賞選考委員 (平成13～18、20～21年)
- ・文化庁芸術祭執行委員 (平成21～28年)
- ・日本芸術文化振興会評価委員 (平成21～令和3年)

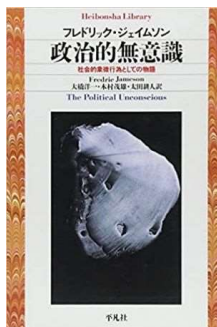
【著書】

- ・『政治的無意識 社会的象徴行為としての物語』(フレドリック・ジェイムソン著/共訳/平凡社/平成元年)
- ・『ギリシア悲劇を上演する』(オリヴァー・タプリン著/共訳/リプロポート/平成3年)
- ・『シェイクスピアを学ぶ人のために』(分担執筆/世界思想社/平成12年)

<京都市との関わり>

- ・京都芸術センター運営委員会委員(平成14～21年)、同委員長(平成21～23年)、同アドバイザーボード(平成23年～)
- ・京都市芸術文化特別奨励制度専門委員会委員 (平成13～22年)、同審査委員会委員 (平成24～30年)
- ・京都国際舞台芸術祭実行委員長 (平成22～24年)、同顧問 (平成24年～)
- ・京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員 (平成26～令和2年)
- ・公立大学法人京都市立芸術大学評価委員会委員 (平成27～令和3年)、同委員長 (令和4年～)
- ・京都市文化功労者審査会部会員 (令和元～2年)、同部会長 (令和2年～)

<代表作等>



『政治的無意識
社会的象徴行為としての物語』
(共訳/平凡社/平成元年)



『シェイクスピアを学ぶ人のために』
(分担執筆/世界思想社/平成12年)

新内 志賀

しんない しが (非公表)
邦楽 (語り・三味線) / 京都市左京区



【功績】

幼少期から江戸浄瑠璃新内節を研進派初代家元・新内志賀大掾氏及び新派家元・富士松菊三郎氏に師事。平成24年に研進派家元及び新内志賀を襲名し、一門の指導に献身。江戸浄瑠璃である新内節を京都において継承し、新内節の音楽的ルーツを体現している。書き下ろし台本と作曲による楽曲を弾き語りという演奏形式で精力的に発表。

また、本名の重森三果名義では、多くの映画、テレビや舞台等において邦楽指導、演奏出演をするほか、現代芸術分野の作品にも参加するなど、多岐にわたって活動している。

京都芸術センター「新内志賀の会 語りの系譜」を平成24年から3年にわたり実施するなど、幅広い三味線の魅力、日本の伝統音楽を現代社会に紹介する、貴重な役割を果たしている。

本名 重森 三果 (しげもり みか)
浄瑠璃方

<略歴>

- ・京都市出身
- ・幼少期より江戸浄瑠璃新内節を研進派初代家元・新内志賀大掾氏、富士松菊三郎氏に師事
- ・小唄を里園志寿栄氏、里園志寿華氏に師事
- ・京都産業大学外国語学部卒業 (昭和62年)
- ・新内節研進派三代目家元に就任、八代目新内志賀を襲名 (平成24年)
- ・邦楽ユニット「やしよめ」結成 (平成26年)

<主な受賞歴等>

- ・NHK邦楽オーディション合格 (平成5年)
- ・文化庁芸術祭賞音楽部門 優秀賞 (平成26年)

<現在>

- ・新内節研進派三代目家元
- ・新内協会理事
- ・東映京都俳優部和楽講師

<主な活動等>

映画やテレビ、舞台で邦楽指導や演奏出演を行うほか、本名の重森三果名義で和楽アーティストとして精力的に活動

【公演・舞台・講演】

- ・「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」(国立文楽劇場／大阪／平成13年)
- ・「新内志賀の会 語りの系譜」(京都芸術センター／平成24～26年)
- ・三味線の世界について講義 (京都産業大学／令和3年)
- ・「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」(国立文楽劇場／大阪／令和5年)
- ・KACパートナーシップ・プログラム2023採択事業「新内SHINNAI『語りの系譜』」(京都芸術センター／令和5年)

<京都市との関わり>

- ・京都・和の文化体験の日 ショーイング・プログラム「はじめまして 邦楽」出演 (大江能楽堂／京都／平成27年)
- ・東アジア文化都市2017京都「アジア回廊 現代美術展」出展作品 やなぎみわ演出・美術「日輪の翼」出演 (河原町十条：タイムズ鴨川西ランプ特設会場／京都／平成29年)
- ・令和元年度「伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム」採択事業「新内節の発信と保存プロジェクト」実施
- ・日本伝統音楽研究センター主催事業「伝音ライブ！」出演 (京都市立芸術大学／令和6年)

<代表作等>



「新内志賀の会 語りの系譜Ⅲ」
(京都芸術センター／平成26年)



「新内SHINNAI『語りの系譜』」
(京都芸術センター／令和5年)

特定非営利活動法人 日本料理アカデミー

食文化／京都市中京区



日本料理 アカデミー
Japanese Culinary Academy

【功績】

地域に密着した食育活動や世界の料理人との交流、若い日本料理人を対象とした研鑽事業等を実施し、日本の誇るべき食文化に対する理解の促進とその魅力向上に寄与することを目的として、平成16年に設立。

海外の若手シェフに日本料理の調理技術や食文化を伝える「日本料理フェローシップ」や、日本食文化の世界的な振興につなげるため「日本料理大賞」を開催するほか、京都市立小学校における食育授業の実践及び京都ならではの食育カリキュラムの策定など、日本料理の日本文化としての昇華や普及、次世代への継承に大きく貢献している。

「和食；日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産登録をはじめ、「京料理・会席料理」の京都府無形文化財指定や「京料理」の国登録無形文化財への登録にも尽力した。

<沿革>

- ・「日本料理の世界的な理解促進」、「次代の日本料理への貢献」などを活動趣旨に掲げ、「日本料理アカデミー」設立（平成16年）
- ・任意団体から特定非営利活動法人へ移行（平成19年）
- ・「京料理・会席料理」の京都府無形文化財指定に貢献（平成25年）
- ・「和食；日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産登録に貢献（平成25年）
- ・日本初の「日本料理 調理技能認定団体」に認定（平成28年）
- ・「京料理」の国の登録無形文化財登録に貢献（令和4年）

<主な受賞歴等>

- ・京都市教育功労者表彰（平成20年）
- ・地域に根ざした食育コンクール 優秀賞（農林水産省消費・安全局長賞）（平成21年）
- ・京都創造者賞 もてなし・環境部門（平成24年）
- ・和食—京の食文化—特別表彰（平成26年）
- ・京都和食文化賞（平成31年） ※地域食育委員会が受賞

<主な活動等>

- ・日本料理の発展を図るため、教育及び文化・技術・研究並びにその普及活動に取り組む
- ・日本の食文化を次代につなぐ地域に密着した食育活動や世界の料理人との交流、若い日本料理人を対象にした研鑽事業等を実施

【主な取組】

- ・海外の若手実力シェフを京都に招聘し、日本料理の調理技術や食文化を伝える研修「日本料理フェローシップ」を開催（平成17～22、令和6年）
- ・フードサービス産業の活性化と日本食文化の世界的な振興につなげるため、「日本料理大賞（旧 日本料理コンペティション）」を開催（平成19年～）
- ・「日本料理アカデミー検定」実施（令和元年～） ※主催：日本料理アカデミー検定協会

<京都市との関わり>

- ・京都市立小学校における食育授業を実践（平成17年～）
- ・特定伝統料理海外普及事業において、外国人受入れ料理店への助言や実習計画策定に協力（平成25年～）

<代表作等>



「日本料理に学ぶ食育カリキュラム授業」
（錦林小学校／京都／令和5年）



「日本料理フェローシップ」
（菊乃井／京都／令和6年）

細井 浩一

ほそい こういち (66歳)

学術 (文化資源学・ゲーム) / 京都市右京区



【功績】

立命館大学大学院経営学研究科博士後期課程を指導認定退学後、立命館大学において政策科学部教授、映像学部教授、アート・リサーチセンター長、衣笠総合研究機構長などを歴任。現在はZEN大学知能情報社会学部教授及び同大学コンテンツ産業史アーカイブ研究センター所長、ITコンソーシアム京都参事などを務める。

日本の表現文化資源 (浮世絵からゲームまで) を対象として、その長期的な保存から活用までを一つの社会的プロセスとして捉え、文化資源としての組織化に寄与する人材や機関、制度の構築を模索し、その研究に力を注いできた。なかでも「ゲームアーカイブ・プロジェクト」は、産学公連携によるゲームの包括的な保存活動として1990年代後半から継続しており、講演活動や後進の育成にも尽力するなど、日本におけるゲーム研究の第一人者として多大な貢献を果たしている。

<略歴>

- ・石川県出身
- ・立命館大学大学院経営学研究科博士後期課程指導認定退学 (昭和62年)
- ・市邨学園短期大学商経科助教授 (平成3~6年)
- ・立命館大学政策科学部助教授 (平成6~13年)
- ・コロラド大学外来研究員 (平成11~12年)
- ・立命館大学政策科学部教授 (平成13~19年)
- ・立命館大学映像学部教授 (平成19~令和6年)
- ・立命館大学アート・リサーチセンター長 (平成28~令和4年)
- ・立命館大学衣笠総合研究機構長 (平成30~令和2年)
- ・日本文化資源デジタルアーカイブ国際共同研究拠点長 (令和元~6年)

<現在>

- ・ZEN大学知能情報社会学部教授
- ・ZEN大学コンテンツ産業史アーカイブ研究センター所長
- ・立命館大学名誉教授
- ・立命館大学衣笠総合研究機構 首席研究員
- ・立命館大学ゲーム研究センター運営委員
- ・ゲームアーカイブ推進連絡協議会会長

<主な受賞歴等>

- ・日本デジタルゲーム学会賞 (平成28年)
- ・デジタルアーカイブ産業賞技術賞 (令和3年)
- ※立命館大学ゲーム研究センターとして受賞

<主な活動等>

メディア芸術に関する官公庁や民間団体の委員を多数務める

- ・産学公連携「ゲームアーカイブ・プロジェクト」ファウンダー (平成10年~)
- ・文化庁「メディア芸術関連事業」委員 (平成24年~)
- ・日本デジタルゲーム学会副会長 (平成18~22、28~令和4年)、同会長 (平成22~28年)
- ・デジタルアーカイブ学会理事 (平成29年~)
- ・内閣府「デジタルアーカイブ推進に関する検討会」委員 (令和5年~)

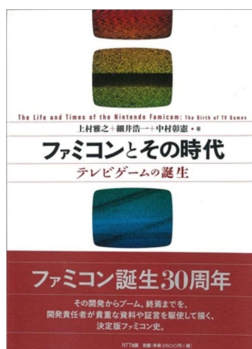
【著書】

- ・『コーポレート・パワーの理論と実際』 (同文館出版 / 平成18年)
- ・『デジタル・ヒューマニティー研究とWeb技術』 (共著 / ナカニシヤ出版 / 平成24年)
- ・『ファミコンとその時代』 (共著 / NTT出版 / 平成25年)
- ・『アーカイブ立国宣言 日本の文化資源を活かすために必要なこと』 (共著 / ポット出版 / 平成26年)
- ・『ゲーム学の新時代 遊戯の原理 AIの野生 拡張するリアリティ』 (共著 / NTT出版 / 平成31年)

<京都市との関わり>

- ・京都市コンテンツビジネス研究会 座長 (平成20~22年)
- ・KYOTO Cross Media Experience 実行委員 (平成21年~)
- ・ITコンソーシアム京都委員 (平成22年~)、同参事 (令和4年~)

<代表作等>



『ファミコンとその時代』 (共著 / NTT出版 / 平成25年)



「ゲームアーカイブ・プロジェクト」

(現在は立命館大学ゲーム研究センター所蔵コレクション)

堀木 エリ子

ほりき えりこ (63歳)

和紙／京都市上京区



【功績】

高校卒業後に銀行勤務を経て、手漉き和紙の商品開発を行う会社に転職。そこで出会った越前和紙のものづくりの営みに衝撃を受け、昭和62年、呉服問屋の和紙部門として「SHIMUS」を設立した。その後、自社を設立し、「建築空間に生きる和紙造形の創造」をテーマに、オリジナル和紙の制作をはじめ、光壁・光天井・光柱などの和紙インテリアアートの企画・制作・施工、作品展、舞台美術など多方面で活躍し、数多くの賞を受賞するなど、国内外で高い評価を得ている。「伝統を未来へ繋ぐ」、「革新を未来の伝統に育てる」という二つの方向性で越前和紙職人とともに精力的に活動し、伝統的な和紙の域を超えた表現に挑戦し続けるとともに、これまでに京都市内をはじめとする数多くの大学で客員教授や講演会の講師を務めるなど、和紙の文化や技術の普及及び次世代への継承、後進の育成にも力を注いでいる。

＜略歴＞

- ・京都府出身
- ・和紙ブランド「SHIMUS」設立（昭和62年）
- ・株式会社堀木エリ子&アソシエイツ設立（平成12年）
- ・京都光華女子大学客員教授（平成15～16年）
- ・京都精華大学客員教授（平成18～20年）
- ・大阪工業大学客員教授（平成21～30年）
- ・京都府参与（平成25～令和2年）
- ・嵯峨美術大学客員教授（平成27～29年）

＜現在＞

- ・京都美術工芸大学客員教授
- ・公益財団法人国立京都国際会館理事
- ・学校法人芝浦工業大学評議員
- ・株式会社堀木エリ子&アソシエイツ代表取締役

＜主な受賞歴等＞

- ・日本建築美術工芸協会賞（平成13年）
- ・京都府あけぼの賞（平成14年）
- ・インテリアプランニング 国土交通大臣賞（平成14年）
- ・日本現代芸術奨励賞（平成15年）
- ・ウーマン・オブ・ザ・イヤー2003（平成15年）
- ・女性起業家大賞（平成15年）、エクセレント賞（令和4年）
- ・SDA賞 サインデザイン優秀賞（平成18年）
- ・Joie de Vivre賞（平成21年）
- ・京都創造者賞 アート・文化部門（平成23年）
- ・The Trebbia European Award for Creative Activities for 2012（平成24年）
- ・日本水墨画大賞展 匠賞（平成30年）

＜主な活動等＞

「建築空間に生きる和紙造形の創造」をテーマにオリジナル和紙を制作、和紙インテリアアートの企画・制作から施工までを手掛ける

【舞台美術】

- ・ヨーヨー・マ「シルクロード」（カーネギーホールほか／アメリカ／平成11年）
- ・ラファエル・アマルゴ舞踊団「ドン・キホーテ」（マラガ／スペイン／平成17年）

【展覧会】

- ・【個展】「堀木エリ子の世界展～和紙から生まれる祈り～」(そごう心齋橋本店ほか／大阪ほか／平成19～21年)
- ・ミラノサローネ ユーローチエ「Baccarat Highlights」（ロー・フィエラ・ミラノ／イタリア／平成23年）
- ・【個展】「堀木エリ子展－和紙灯りのオブジェ」（高島屋／京都、大阪、東京、愛知、神奈川／平成29、31、令和元年）
- ・「和紙ワンダーメント～美しき和紙アートと光のエキシビジョン～」(インターコンチネンタルホテル大阪／平成30年)

＜京都市との関わり＞

- ・京都・花灯路「創作行灯デザインコンペ」審査委員（平成20～令和4年）
- ・京都景観賞審査委員会委員（平成26～29年）

＜代表作等＞



「堀木エリ子の世界展～和紙から生まれる祈り～」
(そごう心齋橋本店ほか／大阪ほか／平成19～21年)



「上七軒歌舞練場 緞帳」
(京都／平成22年)

松尾 恵

まつお めぐみ (67歳)

芸術振興 (現代美術) / 京都市下京区



【功績】

京都市立芸術大学美術学部工芸科染織専攻卒業後、作家活動を続けながらR2ギャラリー（梁画廊4階）の運営に携わる。昭和61年、自らのギャラリーとして「VOICE GALLERY」を開設、京都市立芸術大学の卒業生をはじめ京都にゆかりのある若手アーティストを積極的に取り上げ、その声や思いを世間に届けようと、企画展を開催する。以後、若手発掘の実績豊富なギャラリーとして高い評価を得ながら、約40年にわたって息の長い支援を行ってきた。

また、「芸術祭典・京」、「超京都」など京都で開催された大規模な文化事業に携わりながら、平成12年の開館記念企画をはじめ草創期から京都芸術センターの運営を支援。現在は同センターの管理運営を行う公益財団法人京都市芸術文化協会の理事を務めるなど、京都の文化芸術の振興及び環境整備に多大な貢献を果たしている。

<略歴>

- ・兵庫県出身
- ・京都市立芸術大学美術学部工芸科染織専攻卒業（昭和55年）
- ・R2ギャラリーの運営に携わる（昭和60～61年）
- ・「VOICE GALLERY（現 MATSUO MEGUMI +VOICE GALLERY pfs/w）」開設（昭和61年）
- ・「KYOTO ART MAP」事務局代表（平成14～24年）
- ・大阪成蹊大学非常勤講師（平成20～令和3年）
- ・アートフェア「超京都」事務局代表（平成22～28年）
- ・京都市立芸術大学非常勤講師（平成22～25年）
- ・VOICE GALLERYを現所在地（下京区）に移転（平成25年）

<現在>

- ・MATSUO MEGUMI +VOICE GALLERY pfs/w代表
- ・瓜生山学園京都芸術大学非常勤講師
- ・嵯峨美術大学非常勤講師
- ・京都精華大学非常勤講師

<主な受賞歴等>

- ・アジアン・カルチュラル・カウンシル日米芸術交流プログラム奨学金給費生（平成7年）
- ・京都市芸術文化協会賞（令和4年）

<主な活動等>

MATSUO MEGUMI +VOICE GALLERY pfs/wにて、京都を拠点とするアーティストなどの展覧会を開催

- ・ダムタイプ「インスタレーション S/N#1」（平成10年）
- ・高嶺格展（平成12年）
- ・高橋匡太「Roomers」（平成21年）
- ・松本和子「温室の中で」（平成30年）
- ・唐仁原希「願いごとのあと Wishes and Ashes」（令和6年）
- ・「フィリピンの現代作家による日常と崇高の記念碑」（令和6年）※京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業
- ・現代美術二等兵「駄美術は今」（令和6～7年）

<京都市との関わり>

- ・「芸術祭典・京」プログラムディレクター（平成2年）
- ・公益財団法人京都市芸術文化協会評議員（平成11～23年）、同理事（平成23年～）
- ・京都芸術センター企画委員（平成11～15年）
- ・京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」委員（平成25～26年）
- ・PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭プロフェッショナル・アドバイザー・ボード（平成27年）
- ・京都市文化功労者審査会部会員（令和6年～）

<代表作等>



「MATSUO MEGUMI +VOICE GALLERY pfs/w」運営（昭和61年～）



「フィリピンの現代作家による日常と崇高の記念碑」（令和6年）

本山 秀毅

もとやま ひでき (64歳)
洋楽 (指揮) / 京都市上京区



【功績】

京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業後に渡独し、フランクフルト音楽・舞台芸術大学合唱指揮科卒業。
帰国後はバハを主とする教会音楽を中心に演奏活動を続け、京都バハアンサンブル (現 京都バハ合唱団) を設立。バハの声楽作品の全曲演奏に取り組むとともに、プロの合唱団やアンサンブルでの指揮、バロック期の劇音楽作品の公演など幅広く活躍している。平成7年にはオレゴンバハフェスティバル、同14年にはライブツィヒバハフェスティバルに招聘され、「口短調ミサ」演奏で好評を博した。また、大阪音楽大学での後進の育成をはじめ、ワークショップの開催、合唱指導法・指揮法の講習会講師や様々な合唱コンクールの審査員を務めるなど、長年にわたり合唱音楽全般の普及にも力を注いでおり、その活動は高く評価されている。平成14年京都市芸術新人賞受賞。

合唱指揮者

<略歴>

- ・京都市出身
- ・京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業 (昭和58年)
- ・フランクフルト音楽・舞台芸術大学合唱指揮科卒業 (昭和62年)
- ・京都バハアンサンブル (現 京都バハ合唱団) 設立 (昭和63年)
- ・バハアカデミー関西設立 (平成12年)
- ・大阪音楽大学教授 (平成12～令和6年)
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル専任指揮者 (平成13～30年)、同桂冠指揮者 (平成30年～)
- ・大阪音楽大学学長 (平成30～令和6年)
- ・オラトリオアカデミー関西設立、音楽監督に就任 (令和6年)

<現在>

- ・京都バハ合唱団主宰
- ・オラトリオアカデミー関西音楽監督
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者
- ・一般社団法人 Harmony for JAPAN 代表理事
- ・全日本合唱連盟理事
- ・宝塚国際室内合唱コンクール理事長

<主な受賞歴等>

- ・藤堂顕一郎音楽褒賞 (平成7年)
- ・京都市芸術新人賞 (平成14年)
- ・大阪文化祭賞奨励賞 (平成22年)
- ・長井賞 (平成28年)
- ・京都府文化賞功労賞 (令和4年)

<主な活動等>

プロ合唱団やアンサンブルにおける指揮者を務めるほか、全国の一般、大学合唱団へ客演指揮、ワークショップや指導法講習会、全日本合唱コンクール、NHK全国学校音楽コンクール審査員など、合唱音楽の普及に多角的に取り組む。また、バハを主とする教会音楽の演奏、啓蒙にも尽力し、古楽器との共演も含めた活動を展開している。

- ・復興支援コンサート「Harmony for JAPAN」(京都府長岡京記念文化会館 / 平成25～令和6年)
- ・名古屋市民コーラス 定期演奏会「ミサ曲口短調」(愛知県芸術劇場 / 令和5年)
- ・「ドリームコーラスコンサート」(大阪音楽大学 ザ・カレッジ・オペラハウス / 令和5年)
- ・「本山秀毅コーラス・ワークショップ」(京都文化博物館ほか / 平成30～令和6年)
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール / 令和6年)
- ・京都バハ合唱団クリスマスコンサート「二つの祝祭」(高槻城公園芸術文化劇場 / 大阪 / 令和6年)
- ・「本山秀毅×東京混声合唱団 東混体験会 in 池田」(池田市民文化会館 / 大阪 / 令和7年)

【著書】

- ・『喝采、その日その日。うたごころの現場から』(Pana Musica / 平成29年)

<代表作等>



『喝采、その日その日。うたごころの現場から』
(Pana Musica / 平成29年)



「ドリームコーラスコンサート」
(大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス / 令和5年)

令和6年度 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員

* 50音順、敬称略

氏名	職業（役職）
赤松 玉女	京都市立芸術大学学長
大嶋 義実	フルート奏者、京都市立芸術大学名誉教授
小堀 純	編集者（演劇企画、評論、演劇書編集）
篠原 資明	国立美術館運営委員会会長、京都大学名誉教授
田端 泰子	京都橘大学名誉教授
中川 成美	立命館大学名誉教授
濱崎 加奈子	公益財団法人有斐斎弘道館代表理事
広瀬 依子	追手門学院大学講師
福井 尚子	ピアニスト、元京都市立京都堀川音楽高等学校講師
森田 りえ子	京都市立芸術大学客員教授
吉田 良比呂	京都市副市長

京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞 受賞者一覧（過去3年分）

年度	芸術新人賞		芸術振興賞	
	氏名	分野	氏名	分野
R5	厚地 朋子	洋画	池田 良則	洋画
	奥山 理子	アートプロデュース・芸術振興（共生社会）	大嶋 義実	洋楽（フルート）
	金 サジ	写真	太田垣 實	美術評論
	倉田 翠	舞踊	川嶋 啓子	芸術振興（染織・ファイバーアート）
	小西 雄大	食文化	下出 祐太郎	漆芸
	最果 タヒ	文学（詩）	世古口 瑳喜	洋舞
	佐野 暁	漆芸	中川 眞	学術（アーツマネジメント・音楽）
	清水 徹太郎	洋楽（声楽）	浜田 泰介	日本画
	宮田 彩加	染織・刺繍	伏木 亨	学術（食文化）
	山本 麻紀子	現代美術		
	吉岡 里帆	映画・演劇（俳優）		
芳木 麻里絵	版画・現代美術			
R4	宇高 徳成	能楽	柏原 えつとむ	現代美術
	西條 茜	陶芸・現代美術	川上 力三	陶彫
	澤田 華	現代美術	高尾 美智子	洋舞
	谷崎 由依	文学（小説）	田中 美鈴	洋楽（ピアノ）・芸術振興（音楽）
	千葉 雅也	文学（小説）・学術（哲学）	内藤 英治	染織
	中嶋 俊晴	洋楽（声楽）	中ノ堂 一信	学術（工芸文化史）
	藤井 俊治	洋画		
	細尾 真孝	染織		
	村山 春菜	日本画		
	森本 瑞生	洋楽（打楽器）		
樂 吉左衛門（十六代）	陶芸			
R3	石橋 志郎	日本画	隴谷 寿	学術（歴史）
	小嶋 晶	現代美術	白井 進	書
	金剛 龍謹	能楽	椿 昇	現代美術
	斉藤 綾子	舞踊	並木 誠士	学術（美術史・美術館学）
	谷川 美音	漆芸	福井 尚子	洋楽（ピアノ）
	中岡 真珠美	洋画	本城 ゆり	舞踊
	中村 裕太	現代美術	三好 荒山	邦楽（尺八）
	林 美音子	邦楽（柳川三味線）	村田 純一	芸術振興（文学）
	福田 彩乃	洋楽（サクソフォン）	一般財団法人 ニッシャ印刷文化振興財団	芸術振興（印刷文化）
	藤野 可織	文学（小説）		

（敬称略・五十音順）